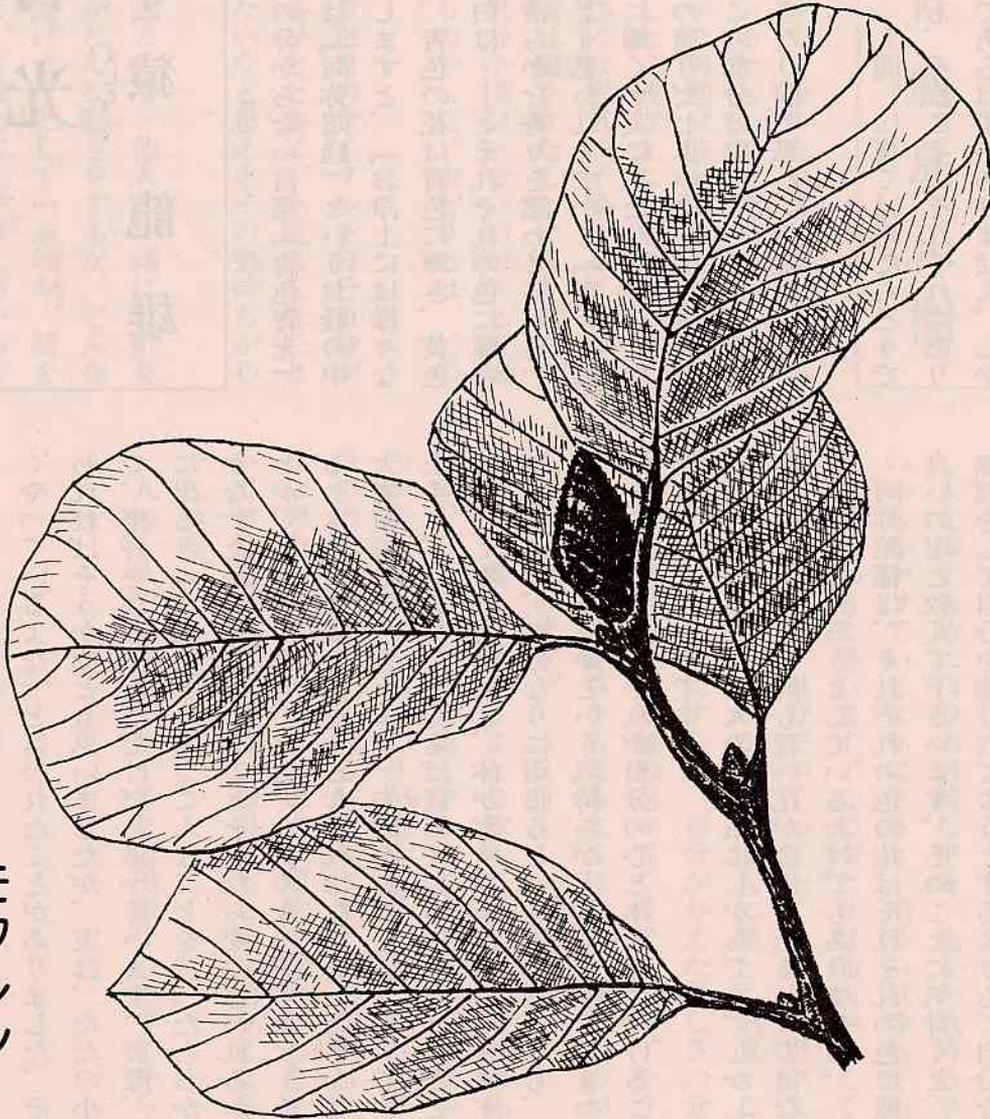


みおしえ



心の工夫

モクレン

しょう しき しょう こう
青色青光

見立寺 猿ましら
龍 雄

いきなりタイトルから訳の分からない言葉「青色青光」などと掲げましたが、これは『阿弥陀経』というお経の中にある言葉です。少し説明しますと、「お浄土には様々な色の蓮華の花が咲いていて、青色の花は青色に輝き、黄色の花は黄色に輝き、赤は、白は……とそれぞれの色に輝いている。そしてそれぞれが清らかな香りを漂わせている」と説かれています。皆様はどう思われますか？「青い花は青く輝き、黄色い花は黄色に輝く」実に当たり前のことだと思いませんか？私もその通りだと思います。普段『阿弥陀経』を読んでいても、この部分は取り立てて心に響くわけでもなく、そんなこと当たり前と思い、ただ読み過ぎしてしまいました。

さて、このことを私たち「人間」に当てはめたらどうでしょう。容姿も個性も能力も、それこそ人それぞれであります。みんながみんな同じであるはずがありません。しかし、日頃の生活の中で、私たちは本当に自分のありのままの姿を大切にしているでしょうか？

私は、以前友人から「お前はいつも飄々ひょうひょうとして、要領よくやっているよな」と言われたことがあります。そう言われればそうかなとも思いましたが、実は、ただの小心者で、格好をつけていただけだと思っています。実際、人前に出ると「こんなところでこんなことを言ったらおかしいかな」とか「今時こんなことをしたら変に思われるかな」とか、よく考えます。また、大勢の人の前でスピーチをするときや、代表で何かをしなければいけないときなどは、大変緊張してしまいます。失敗をしないように、できれば上手に、できることならば褒めてもらいたい、などと考えるほど緊張し、体がガチガチになってきます。たぶんそれは、自分なりに頑張るといふ気持ちよりも、他人にどう思われるかという気持ちが大きくなってしまったからなのでしょう。それが自分の心と体を締め付けることになってしまったのです。

私たちは、とかく人の目を気にしがちです。しかし、お浄土に咲く花は、何も青い花が金色に光るわけではなく、また金色に光ろうとしているわけでもありません。

阿弥陀様は、それぞれの色の花はそれぞれの色に輝けば良いのだと教えて下さいます。そのことに気付くと、私も無理をして自分を飾り立てようとするよりも、自分なりに頑張る、ありのままに輝けば良いのだと励まされます。

心のゆとり

正樹院 鹿島 正樹

先日、テレビでこんなコマーシャルを見ました。とあるバーの前で「病気の子供がいる」といって花を売っている女性がいました。通り掛かった男性は彼女にお金を払い、待ち合わせのバーに入りました。彼は先にきてカウンターに座っていた友に「あの女性には病気の子供なんていないよ」と言われます。その時彼は騙だまされたことに腹を立てるのではなく、「そうか、病気の子供はいないのか」と安堵の表情を浮かべる、というものでした。ゆとりとは、どのようなものでしょうか。

私が思うゆとりとは、毎日毎日のサイクルを自分自身が遣やり遂げて、「ホッ」とするひとときに、今度こんなことをしたいな、あんなことしたいなと思えるその気持ちがあるゆとりと考えています。

私は心のゆとりを得る方法として、他人と一緒に行動を共にする時、自分以外の人がある動きをするか、どんな気持ちで一つのことを遣やり遂げようとしているのか、話をしながら聞きながら行動して、多様な方法や考え方があ

ことを知ろうとしています。様々な角度から一つのことを観ること、その物の重みや膨ふくらみを感じられ、自分自身へ、心のゆとりが感じられるようになるのです。

人と接する時に自分の気持ち半分、他人の気持ち半分といつも心がけているようにすると、相手の気持ちを知るゆとりが出来ると思います。心のゆとりは他人が与えてくれるものではなく、自分でつくっていくものだと思います。

自分のことを可愛がるより、他人に優しく気遣うことを努力していくようにする時、自分が与えた優しさの分、相手の喜びが自分の心に跳ね返ってくるでしょう。そうすると心に喜びの豊かさをもてるようになり、善なる心が育てられると思います。

他人に優しく気遣うことを教えてくださるのは阿弥陀様です。日々お念仏をお称えする中で、少しずつ自分中心の心が洗われて、心にゆとりが生まれてくると思います。自分の出来る範囲で、だれもが他人に手を差し伸べられるように努力してほしいと思います。阿弥陀様のお力をいただいでお称えするお念仏は、心の支えとなり励みとなることでしょう。

人は一人では生きていくことは出来ないのですから。

仏壇（ぶつだん）

現在普通に仏壇と呼んでいるものは、もっぱら在家用の念持仏・先祖の位牌などを祀る箱型の厨子です。

日本では686年天武天皇が詔を下されたのが始まりですが、広く一般には普及しなかったようです。平安時代以降、住宅の一部に持仏堂をつくり仏像を安置して読経する人もありましたが、庶民は霊場などから戴いた神仏像を壁に貼って祀るぐらいでした。江戸時代になり、邪宗門禁止の令が出されて必ず仏教のいずれかの宗派に属するようになると、どの家も仏壇を設けて年忌仏事を勤めるようになりました。

仏壇は本来仏教の理想世界を現わしたものですから、段の最上部中央に、浄土宗では御本尊様 阿弥陀如来 を安置します。お家によっては、ご先祖の位牌が中心に置かれているところも見受けられますが、これでは位牌壇になってしまいます。また、阿弥陀仏の脇持として観音菩薩と勢至菩薩を従えた三尊仏としたもの、両脇に善導大師と法然上人を配したものともあり、どちらにも立ったお姿と座ったお姿があり、仏像や仏画もあります。

現在の仏壇は材質や様式は様々ですが、毎日欠かさず手を合わすことが重要です。

【編集後記】

◆ 今回は、猿・鹿島両上人の登場である。共に中堅として活躍しているお二人には、自らの考えを素直に表現して頂いた。改めて感謝申し上げます。

◆ 普段から体調に気を配っている方は多いと思う。例えば栄養のバランスに気をつけたり、運動をしたり、葉を飲んだり、休養したり、これらは大切なことである。ところが、普段から自分の心の調子に気を配っているかどうか？ 今回のテーマはこれであり、本文はあくまで解答例である。読者の皆様はいかがであろうか。改めて考えていただければ幸いである。

〒三六五-〇〇三八

埼玉県鴻巣市本町八の二の三一 勝願寺内

『みおしえ』編集室 代表 藤田俊彦